

2013.10.05

熊高37会ハイキング部会

金峰山、拝ヶ石巨石群、峠の茶屋



2013/10/05 熊本市西区金峰山665m

# 拝ヶ石巨石群

OGAMIGAISHI MEGALITHIC STRUCTURE



- 拝ヶ石巨石群(頂上)まで  
約400m(約15分)
- 覗ヶ水まで  
約350m(約10分)



拝ヶ石山の頂上付近には、最大で約9mもの巨大な石が立ち並ぶ異様な雰囲気巨石群があり、「拝ヶ石」と呼ばれています。この巨石群は、中世の宗教遺跡・修験の道場跡と考えられていますが、最近になりペトログラフ(古代岩刻文字)研究者により岩に刻まれた古代の文字と思われるものや方位計が回転するなどの磁気異常の存在が発見され、この古代のロマンと謎を極めた「拝ヶ石」に新たな注目が集まっています。

金峰山周辺ハイキングコース整備事業(拝ヶ石遊歩道整備)  
平成8年度 地域新興総合補助会(交流促進分) 平成9年3月竣工 熊本市・熊本県







2013/10/05 拜々石巨石群



2013/10/05 拝々石巨石群

# 峠の茶屋で昼食



## 春風や惟<sup>い</sup>然<sup>ぜん</sup>が耳に馬の鈴

漱石の名作「草枕」の中の一句。

この句にある「惟<sup>い</sup>然<sup>ぜん</sup>」は、松尾芭蕉の弟子広瀬惟<sup>い</sup>然<sup>ぜん</sup>（江戸前期の俳人、1711年没）のことです。惟<sup>い</sup>然<sup>ぜん</sup>は、ある日風もないのに散る梅の花を見て感動、突然に悟って、妻子も家業も捨てて僧になったという変わり者で、芭蕉の死後、その供養のため、芭蕉の句を念仏のように唱えて、日本中を巡り歩いたといわれています。

草枕の旅の中で、漱石は、ここ峠の茶屋で馬子の源さんと出会います。「じゃらんじゃらん」という馬の鈴と惟<sup>い</sup>然<sup>ぜん</sup>の念仏とを取り合せて「馬の耳に念仏」という諺を連想させるおもしろさから春ののどかな田舎の茶屋の情景を描いたものと考えられます。

この碑は、「おい、と声を掛けたが返事がない」の名場面で有名な漱石の名作「草枕」に登場するこの峠の茶屋に、在りし日の漱石を偲び平成元年に建てられたものです。

平成9年 熊本市

# 峠の茶屋

